

発言No.

16

受付No. 3

令和6年6月4日

9時12分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 10 番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者

☒ 市長

☐ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

☐ 農業委員会会長

☐ 固定資産評価審査委員会委員長

☐ 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 水稻の等級低下について

- ① 異常気象により高温への対応が生産現場の重要課題になっている。令和5年産米、JAいわみ中央管内1等米比率は平均67.2%、中でも浜田地区は53.5%で非常に厳しい状況である。本年度は良品質・収量など安定生産をするための高温対策等が必要と感じるが市の考えを伺う。

(2) 雇用時教育について

- ① 労働者の安全確保を定めた労働安全衛生法に基づき、農業で安全対策を強化する動きが進んでおり、労働者の雇用時に行う「雇い入れ時教育」で、指導項目が本年度から増えた。機械作業の危険箇所や、保護具の取り扱い方法などの説明を義務化、説明不十分な場合は罰則もあるようだが、市の状況を伺う。
- ② 市の対応策を伺う。

(3) クロスコンプライアンスについて

- ① 農林水産省では補助事業の要件に、最低限の環境負担軽減の取組を求める仕組で、農家が肥料や農薬を必要量だけ使うなど、従来からしている取組を明確化にする「クロスコンプライアンス」を本年度から試行的に導入する。農業の生産現場ではどのような対応が求められるのか、市の考えを伺う。

(4) マダニ感染症について

- ① 温暖化に伴い、マダニが媒介する人獣共通感染症への脅威が西日本に広がっており、昨年は感染者数が過去最多であった。農業従事者等は草むらに潜むマダニとの接触機会が多く特に注意喚起など必要と感じるが市の考えを伺う。

(5) 熱中症特別警戒アラートについて

- ① 熱中症予防を促す新たな警戒情報「熱中症特別警戒アラート」の運用が開始された。2021 年から全国を対象に運用している「熱中症警戒アラート」よりも、厳重な対策を求められるが、市の対応について伺う。
- ② クーリングシェルターについては、益田市は指定されている。浜田市の考えを伺う。
- ③ 農業安全の為に、農林水産省は5月から7月までを「熱中症対策研修実施強化期間」に据えているが、市の対応について伺う。

2 食料品アクセス困難者について

- ① 各種統計からの推計で、日本に住む高齢者の4人に1人が、食料品アクセス困難者になり過去最悪の状況と聞く。特に中山間地は、食料安全保障環境は悪化の一途をたどっていると感じるが、市の対応策を伺う。

3 防災機能を備えた給食センターについて

- ① 能登半島地震で改めて注目された災害時の「食」を巡る問題がある。学校給食を作りながら、地震や台風など大災害が起きて市民の避難が必要になった時、避難場所に届ける食事を作ったり、避難所にもなる事から、防災機能を持つ学校給食センターが新設されている。生活インフラが壊れても、しばらくは自力で市民の食を確保できると感じるが、市の考えを伺う。